

2020 年度 第 2 四半期 アナリスト・機関投資家向け説明会（質疑応答要旨）

1. 連結業績・その他

Q. 2020 年度の通期予想の経常利益△35 億円から親会社株主利益△95 億円の差分は税負担と特損が要因か？

A. 特別損益、税負担、TAA の少数株主持分 25%減の影響が差分の主な要因。

Q. 連結経常損益分析の構成要素の「販売関係差」にはどういった要素が入っているのか？

A. コロナ影響による販売損失は構成要素の「コロナ影響」に織り込まれている。よって、コロナ影響を直接受けていない品種の国内販売が主な構成要素となっている。

Q. アルミ圧延品全般について、自動車材など自動車向けの需要が 2020 年度下期より戻ってくると想定していたが、通期業績見通しおよび通期予想の連結経常損益分析では下期での回復は織り込まれておらず、保守的な見通しにも見えるがどうか？

A. 自動車材を含む自動車向けビジネスについては、お客様ごとに販売台数の回復度合いに濃淡があることから、下期も上期同様のトレンドが継続すると想定して販売計画を立てた。

Q. 国内の半導体製造装置向け厚板の需要動向（今後のトレンド含む）について教えてほしい。

A. 直近はまだ回復していない。5G 向け基地局などの設備投資が堅調であり、半導体製造装置の需要も長期トレンドでは回復すると思う。半導体のサプライチェーン全体の動向は常にウォッチしている。

Q. 2020 年度の連結経常損益分析の「その他・調整額」には経費削減効果が+29 億円が織り込まれているにも関わらず、合計は△16 億円。構成要素について詳しく教えてほしい。

A. 福井製造所に新設した自動車向け CALP ラインの償却負担、今年の銅管事業売却影響、オーストラリア子会社 UAAU の業績悪化影響等が含まれており、結果として△16 億円となった。

Q. グローバルでのペットボトルからアルミ缶へのシフトトレンドはコロナ禍でも進展があるのか？

A. 北米市場ではボトル缶のミネラルウォーターが発売されるなど進展があるが、日本を含む他の地域における進展はこれからである。

2. 主要子会社の状況

Q. TAA と UATH の通期の売上、営業利益、経常利益予想を教えてください。

A. UATH: 売上高 648 億円、営業利益 △35 億円、経常利益△47 億円
TAA:売上高 1,355 億円、営業利益 84 億円、経常利益 61 億円

Q. タイ (UATH) の市場環境の近況について教えてほしい。

A. タイの市場については海外からの渡航も含めてまだ完全に回復したわけではないが、UATH の販売の 70~80%は海外で、東南アジア全域、北米、オセアニア、中東、南米までグローバル展開しており、グローバルでは 7-9 月が需要の底で 2020 年 10 月以降は徐々に回復するとみている。

Q. UATH は 10-12 月から販売数量が増加する計画とのことだが、地域別の回復状況についてもう少し詳しく教えてほしい。

A. 東南アジアが増加傾向、北米はコロナ禍でも市場は旺盛、その他地域についても需要が増えており、12 月は月販約 2 万トンまで回復する。

Q. UATH の損益分岐点について教えてほしい。年間何十万トンを販売できれば営業黒字が可能になるのか？

A. 年間約 20 万トンの販売を以て営業利益ベースで黒字化。来期は、計画通り約 30 万トンの販売ができれば営業、経常利益ベースでも収益への貢献が期待できる。

Q. 加工品・関連事業の業績も厳しいが、UWH など自動車向けのビジネスは需要が戻ってくるが見込まれるが、今後の見通しは？

A. UWH は米国ミシガン州の州政府からの要望もあり、1 か月半ほど稼働を止めた。その影響もあり、2020 年度の業績は一時的に悪化するが、足元の自動車の需要は回復してきており、お客様からの新規オーダーも増えている。また、すでに、受注済みの部材の 2021 年からの量産開始に向けた設備を増強するなど、投資フェーズでもある。

3. 構造改革関連

Q. 構造改革効果の考え方について、改革効果が国内も含め、全般的に需要回復が大前提で計画が立案されているのか？ 仮に、需要が回復せず、販売数量がさらに減少した時に、生産拠点の集約等の改革効果が剥落し、構造改革効果が発現しない可能性についてはどう考えているのか？

A. 生産拠点集約および間接費削減は自社の取り組みであるため、販売需要の変動の影響は受けない。ただし、最適生産体制・品種構成改善の施策効果については、販売需要の変動を受けるので進捗管理を徹底していきたい。

Q. 2021 年度は構造改革効果が+100 億円強出てくると思うが、国内・海外どの施策効果でどの程度改善するのか詳しく教えてほしい。

- A. 2021 年度の構造改革効果は 100 億円以上発現する。改善効果が大きいのにはコロナ影響を一番受けた UATH と UWH。国内も 2021 年度は需要回復、日光製造所の閉鎖および押出事業のプレス機集約など生産拠点の集約効果が出てくる。
- Q. 構造改革関連で来期以降に数十億円規模の特別損失が発生する可能性はどの程度あるのか？
来期は、より構造改革効果が出てくると考えてよいか？
- A. 来期も構造改革に伴う特別損失は発生するが、2020 年度が損失のピーク。
来期は営業損益ベースで構造改革効果が徐々に発現してくる。

◆将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります。確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

◆著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社 UACJ に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。